

【各部署における今年度の重点目標と取り組み（各部署評価表）】

・学年

部署名	1 学 年
今年度の重点目標	<p>「自分」を見つめ直す（3年間の目標：「自分」を語れるようになる）</p> <p>〈生活〉 時間を守る、挨拶をする、掃除をする</p> <p>〈学習〉 授業を大切にする、質問できるようになる、ルールを守る</p> <p>〈進路〉 いろいろな選択肢があることを知る、将来への関心を高める</p> <p>挨拶がきちんとできる</p> <p>感謝の気持ちを忘れない</p> <p>最後まで諦めない</p> <p>体験を積み重ねていく</p> <p>仲間を大切にする。誰かの一生懸命を応援できる（「あかさたな」）</p>
方 策 (取り組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒面談や学年集会、保護者面談等を通じて、生徒及び保護者に学年目標の周知を図る。 ・生活や学習の状況をつぶさに観察し、変化の把握に努める。面談等を行い、丁寧な指導・支援を進める。 ・学校行事や「産業社会と人間」の学習活動を通して、自分を見つめなおすとともに自己の適性についても関心を持てるようにする。 ・問題行動に対しては丁寧な聞き取りを行いつつ、毅然とした態度であたる。
結果	<p>〈生活〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年集会等、指示を出さなくても動ける生徒が多いことは喜ばしいが、行動が緩慢な生徒が目立つことは課題。 ・自発的な挨拶が出来ない。クラブ加入率も影響しているかもしれない。 ・清掃は全体的には良く取り組んでいるが、一部に人任せにしてしまう生徒がいるのが課題。講座別授業となる次年度以降どうなるか。 <p>〈学習〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科担任のご指導もあり、授業を真剣に取り組んでいる生徒が多い。授業妨害にあたる行為の報告もあり、適宜指導を行っている。 ・大幅な定員割れの影響もあり低学力層の生徒も多いなか、目標を定めて学力を伸ばそうとする姿勢が見られる。 <p>〈進路〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」の授業や講座選択、校外研修などを通して自己理解等の準備を重ね、進路選択について自分の適性を考える機会を作ることが出来た。 ・自分の適性や将来の希望に合わせて、2年次の科目を選択することが出来た。

部 署 名	2 学 年
<p>今年度の 重点目標</p>	<p>【3年間の目標】 自立した人になる 2年次の目標 「自分の価値を高める」 <生活>・自己管理能力を高める ・人のために動ける人になる <学習>・自分の強みをつくる（資格・検定に挑戦する） ・探究活動を通して学びを深める <進路>進路先を研究する ・進路実現の道筋を考える</p>
<p>方 策 (取り組み)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年集会、保護者懇談を通して生徒及び保護者に対して学年目標の周知を図る。 ・各自の生活や授業の状況に対し責任感を持たせ、面談等を活用し個々の状況を確認・指導する。 ・進路実現に必要な学力を身につけるため、日々の授業への出席や取り組みを大事にさせる。 ・部活や委員会等の生徒会活動や学校行事・夏休みを利用した探究活動を通して、進路実現のための方法や準備を具体的にできるよう支援する。
<p>結果</p>	<p><生活></p> <ul style="list-style-type: none"> ・5分前行動の呼びかけと服装・身だしなみをきちんとすることを1年次から継続して現在も指導中。あいかわらずチェックのとき以外守らない人が一部残る点が課題。 ・毎日の清掃活動や教室や廊下の使い方について継続指導し公共心を涵養することができている。最上級学年になり気が大きくなる次年度が課題。 <p><学習></p> <ul style="list-style-type: none"> ・副担二人や教科担任の協力をえて、日々の授業への取り組み、テスト前の学習環境の整備、提出物について指導した結果、概ね各自で対応できている。 ・探究基礎の授業で、上田と沖縄を比較して研究することを通して、課題探究の型を学ぶことができた。 ・多くの生徒が授業を大切に取り組み落ち着いた状態であり、資格取得に挑戦する生徒が増えた。 <p><進路></p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みのオープンキャンパスやインターンシップへの準備や実習後のまとめを通して、進路実現にむけて研究を各自で準備すべきことを具体的に進めることができた。また、早い段階から文章の要約などに取り組みさせることで、志望理由書・自己PRの書き方などの準備ができた。 ・進路希望に合わせて3年次の科目を選択することができた。

部署名	3 学 年
<p>今年度の 重点目標</p>	<p>【3年間の目標】 自分のオリジナル人生をデザインし、多様化する社会に対応する“きょうそうりょく”を育む</p> <p>3年次の目標 「叶総力」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路実現を目指して、自分で決めた将来の目標を叶えるための努力を無駄にしない。 <p>〈生活〉～ 自立と責任 ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 規則正しい生活習慣を確立し、社会人としての基礎を築く。 ・ 周囲との協調を大切に、最後の1年を充実したものにする。 <p>〈学習〉～ 目標を持ち、最後まで努力する ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的に学習し、受験・就職試験に向けた準備を徹底する。 ・ 学びの姿勢を大切に、知識を深めることを楽しむ。 <p>〈進路〉～ 自分の未来を切り拓く ～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 進路目標を明確にし、受験・就職活動の情報を積極的に集め、主体的に行動する。 ・ 進路実現に対し「納得のいく選択」をする。
<p>方 策 (取り組み)</p>	<p>○生徒面談や学年集会、保護者懇談を通して生徒及び保護者に対して学年目標の周知と理解を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームルームや普段の授業で規則正しい生活を送れるよう指導する。 ・ 普段の授業に集中して取り組ませるとともに、「総合研究」の時間を活用しながら、日頃から興味・関心や疑問をもつことを大事にし、探求的な学びができるよう指導する。 ・ 各種行事で物事を決める際に、周りの意見を尊重しながら最終的な決定に至るまでの経験を積ませる。 ・ 各分野での学びを深めつつ、CL の時間も活用して、将来に向けた目標を明確にするとともに、自ら情報を収集し進路希望を実現するための準備をさせる。
<p>結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間にルーズな生徒も少なくなく、ホームルームや授業に遅刻するものが目立つので規則正しい生活を送れるよう声掛けを意識し改善につながった。 ・ 「総合研究」では、自分の興味関心をもとにした探求的な学びの中で、進路実現に向けた PR 等に繋げる活動を積極的に行う生徒もいた。意欲的に郊外活動や実践的活動を積み重ね、主体性が身についたり面接の材料として進路活動の準備につながった。 ・ 文化祭企画では、周りの意見を尊重しながらコンセンサスをとるいい経験となった。学校行事やアルバム制作等経験を重ねるきっかけを作る中、R 長会を中心に学年行事の企画運営を自分たちで行った。 ・ CL の時間の活用方法を学年会レジュメで共有し、生徒への有効的指導に繋げ、希望進路の実現に向け学年団でサポートできた。

・教科

部 署 名	国 語
今年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎学力の定着を図るとともに実践的な力を養う。 2 論理国語教材を用いるなどして、思考力・判断力・表現力を養うとともに、広く社会に関心を持ち、主体的に物事を考える力を養う。 3 ICT を活用し自主的学習、復習を行い、学力の定着を行う。
方 策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業時の計画的な漢字テストの他、漢字検定などの対策を行い、合格率を上げる。 2 教員間の授業展開や教材の共有などを積極的に行う。 3 他教科との連携を行う。 4 生徒が自宅でも進んで学習できるように、classroom やロイロノートによる学習の方法を研究・対応していく。 5 語句調べをタブレットを使用して行い、時に学校に備えられている辞書を用いて調べることで、双方の長短を理解する時間を設ける。
結 果	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業冒頭に漢字小テストの実施を継続しているが、何度も繰り返し解答練習させることで生徒の漢字力の向上、定着に結びついていると考える。漢字検定を受検する生徒は多くいるものの、合格まで結びつく生徒は少ないため、教科として対策を考えていく。 2 教材作成を分担して行い、仕事の分散化により、時間の有効利用に役だった。 3 今年度は他教科との連携はなかなか取れなかった。過去には商業分野とのキャッチコピー考案の連携授業などの例もあるため、参考にしていきたい。 4 ロイロノートなどの IT 教材を活用したところ、生徒達の反応の良い領域もあり、一定の効果が見られた為、今後も研究していきたい。 5 ICT 機器を活用して語句を調べることの利便性を学習することができている。今後は、紙の辞書との違いや双方の長短に注目して学習を進めていきたい。

部署名	地歴公民
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 自律的な主権者として、世の中の様々な問題について、自分事として考えることができる思考力や主体性を身につけさせる。 2 ICTを様々な場面で活用し、どのように学習に対するモチベーションを高めるか、基礎学力を身につけさせるかを追求する。 3 総合学科における地理・歴史・公民科教育のあり方を引き続き検討する。
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 成人年齢が18歳となり、世の中で起こっている諸問題に対し、主体的に考え、自らの意見を表現する能力が必要とされている。そのため、授業内で現代社会の諸問題に触れ、他者と協働しながら自分なりの見解を思考させる。 2 自発的な学習の形を考えるため、タブレットや意見共有等が簡単にできるシステムを活用する。教えるべき内容、身につけさせるべき力を絞り込み、明確にする必要もある。 3 一般教養としての地歴公民科、あるいは興味関心を深める一分野としての地歴公民科の役割を意識しながら、総合学科という枠組みの中でいかに地歴公民科を生かしていくか、他教科とも連携しながら継続的に意見交換をする。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 各授業において、時事的な事柄を取り上げながら、教科書の学びと現代社会をリンクさせることができた。外部講師を招いての授業では、生徒たちがまた別の視点から社会問題に向き合い、物事を主体的に考え表現する様子がみられ、貴重な機会となった。 2 電子黒板やタブレットを活用しながら、各教員がそれぞれの分野で生徒のモチベーションを高める工夫をし、授業を行った。次年度も受け身ではなく、生徒が主体的に参加する授業作りに励んでいきたい。 3 教科会では授業の取り組みなどの意見交換や情報共有を行った。来年度から開講する選択科目「地生学」と「実践経済」は、体験等の学習を通じて課題を発見し検討していくという、実生活に根ざした科目である。生徒たちが、活動を通して実社会に必要な思考力や判断力を養えるよう努めていきたい。

部署名	数学
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 基礎的な計算能力を身につけさせる。 2 生徒の進路希望と必要度に応じ、一人ひとり個別に対応、指導する機会をできるだけ多く設ける。 3 ICTなどを活用した復習を行い、学力の定着を行う。
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 必要に応じて、プリント学習を行う。 2 宿題・週末課題を課し、点検して家庭での学習習慣を身につける。 3 保護者面談期間や長期休業中に、進学補習・不振者補習を実施し、それぞれの目的別の教材を準備し、演習・解説を行う。 4 授業内容が定着しているかを確認するために、定期テスト以外にも小テストを実施する。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 1年生では三角比、2年生では問題演習、3年生では考査前など必要に応じてプリントを作成し、学習を行うことができた。 2 各教科担当で適宜課題を課し、学習習慣を身につけさせようとした。 3 保護者面談期間中に1, 2学年の希望者生徒を対象に進学補習を行った。 4 各学年の授業において、それぞれ適切に授業内確認テストを実施し、授業内容の定着を確認することができた。

部 署 名	理 科
今年度の 重点目標	1. 中学校で学習した内容を復習することを含め、高等学校で学ぶべき基礎・基本的な知識・技能を習得し、科学的な素養を育む。 2. 教科間の関連性や日常の何気ない疑問と理科との関係に気付かせることを通して、思考力・判断力と科学的に説明・表現する力を養う。 3. 「総合研究」「科学研究」をはじめとした各講座において、主体的・探究的な学習をより充実させる。
方 策 (取り組み)	1 ICT 教材等を活用した効果的かつ効率的な授業を展開し、要点からより深い学習まで、総合学科の生徒が持つ幅広いニーズに対応できるようにする。 2. 実験や観察の機会を充実させ、理科の見方・考え方を身につけられるように指導する。実験器具の使い方、結果の考察・まとめ方を実物から学ぶよう指導する。 3. 学習内容と身近な事柄の関係に気づかせ、興味のある事柄に関して自分で仮説を立て検証することを繰り返す中で、探究的に学ぶ姿勢を育てる。
結果	1. 座学の授業では板書やプリント、ICT 機器の活用により、おさえない事項を明確に提示できており、知識・技能の定着を図ることができた。テストなどの学習効果測定で、まだ十分に力をつけることができていない生徒に対するフォローアップにも取り組んだ。 2. 各科目で実験や観察の活動を多くとることができた。外部から講師を招いた出前講座も活用しており、高校理科の学習と実世界とのつながりについて考える力を育むことができた。 3. 進度や成果には個人差があるが、実験・調査活動と発表を通して、生徒は主体的・探究的に課題に取り組む能力を伸ばすことができた。

部 署 名	保 健 体 育
今年度の 重点目標	1 授業を通し、生徒の基礎体力の向上を図る。 2 ルールを遵守し、授業に臨む姿勢・態度を整わせ、意欲的に取り組ませる。 3 集団スポーツの中で互いに協力する姿勢を養い、協働して課題を解決する能力を高める。 4 男女共修の中でスポーツを通じ互いを尊重しあえる姿勢を養う。
方 策 (取り組み)	1 試合や練習形式の工夫を図り、運動量を確保する。また、導入段階で単元に応じた補強運動を取り入れる。 2 服装・頭髮の徹底を図り、装飾品は必ず外してから取り組ませる。安全な活動を確保するため、ルールに則った活動ができるよう指導する。 3 各単元の導入や練習の段階で、他者と協力して、取り組む内容を展開し、さらに各段階で課題と目標を設定させるよう工夫する。
結果	1 同時開講の講座数により施設の確保に苦慮したこともあったが、概ね計画通りであった。夏場プールが使用できないこともあり種目の選択が厳しい。 2 計画通りであった。指導が浸透しにくい生徒が減ってきた。今後も生徒と対話をしながら、継続的に指導をしたい。 3 大多数の生徒は、仲間と協働し、学習を深める姿勢が見られ、概ね計画通りにできた。来年度もより一層生徒の学習が深まるよう引き続き課題としていきたい。

部 署 名	芸 術
今年度の重点目標	1 作品制作や演奏活動に主体的かつ意欲的に取り組める教材を工夫する。 2 芸術を通して感性を高め、芸術における表現能力の向上を図る。 3 芸術における知識と実技技能の定着を図る。 4 電子黒板、書画カメラ、タブレット等を使用した授業の実践。
方 策 (取り組み)	1 自ら主体的・意欲的に各科目の活動に取り組めるような授業展開を心がける。 2 生徒の持つ表現能力が充分発揮できるように、個別指導を充実させ、丁寧に指導し、希望する進路の実現につなげたり、日常生活にも生かせる指導を心がける。 3 グループワークを取り入れるなど技術指導の工夫をする。 4 電子黒板、書画カメラ、タブレットを活用した授業や、実践事例を共有する。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭での生徒作品の発表や展示をおこなうことで、生徒の自信を付けることができた。練習の成果を公開することで意欲を高めることができた。 ・ICT 機器を利用することで、個人の表現力や知識の幅を広げ、制作や発表に生かすことができた。 ・希望する進路に向けて、個々に合わせた指導を心掛けることができた。

部 署 名	外 国 語
今年度の重点目標	1 学年 学習習慣を定着させ、基礎学力を身に着ける。 2 学年 各講座の到達目標に達するよう支援をしつつ、日々の学習習慣を定着させる。 3 学年 進路実現へ向けての学習指導を実施する。
方 策 (取り組み)	1 授業では総合的な学力向上を図る。また、授業や家庭学習への真摯な取り組みを促す。 2 学年、講座ごとの特性を生かした授業展開をすすめ、学力の伸長を図る。 3 ALT との TT 授業を充実させ、5 領域バランスの取れた学力育成を目指す。 4 英語検定の実施計画及び受検への呼びかけをする。 5 必要に応じて、補習、個別指導を実施する。
結果	1 学年、講座の実態に合わせ、「読む・書く・聞く・話す」のバランスを取りながら授業を行った。家庭学習の定着が引き続き課題となっている。 2 電子黒板やロイロノートを活用し、各生徒の興味関心に沿った授業を行った。 3 ALT 不在の時期が長く、限られた時間ではあったが、パフォーマンステスト準備・パフォーマンステストを中心に ALT との TT 授業を行った。 4 検定試験の受検を積極的に呼びかけた。また検定直前には個別指導を実施した。 5 進学希望者への補習を実施した。また模試対策・事後指導なども計画的に実施した。

部署名	情報
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 知識・技能の確実な定着や思考力の育成など、指導内容を工夫する。 2 基本的な倫理観としての情報モラルの定着を図る。 3 現課程で取り扱う新たな分野（プログラミングや情報デザインなど）の指導法や評価と指導の一体化について見直しを実施する。
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 コンピュータを使った演習や、グループワークなどの活動を授業に取り入れる。演習を実施しながら、知識・技能を身に付けることができる教材作りを工夫する。 2 グループ討議やクラス内発表、生徒自身にルールを考えさせるなど、自らが当事者として意識を持つことができる情報モラル教育を行う。 3 外部研修への参加や教育課程研究協議会での情報共有など、積極的な情報収集を行い、指導法や評価法を探る。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年度はタブレット端末や各種 Web ツールを活用した演習を多く取り入れた。表面的な知識だけでなく、具体的なイメージを持った知識の定着を図ることができた。 2. クラス内発表まで至らなかったが、現代社会の様々な問題を取り上げ、生徒自身に自分ごととして考えるきっかけを与えることができた。 3. 授業で扱う教材や評価シートの見直しを実施した。プログラミングの指導について、授業では概要に触れる程度に留まってしまっているため、限られた授業時間数の中でどのように知識の定着を図るかが課題である。

部署名	商業
今年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスの視点から社会を見る力を育む ・ 商業の専門性を活かし、地域と連携した学習活動・探究活動を追求する ・ 電子黒板やタブレットなど ICT 機器を活用した新しい授業スタイルの確立 ・ 新課程における新たな分野・科目（観光ビジネス・マネジメント等）の指導方法および学習評価について研究・実践する
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 すべての授業において、社会とのつながりを意識させ、ビジネスの視点から社会の事象を多面的、多角的に見られるような授業展開を行う。 2 販売促進・販売、経営などに関する学習（マーケティング・簿記・原価計算・ビジネススキルなど）を有機的に結びつけた探究活動ができるようにする。 3 教材研究・授業準備の時間を十分に確保し、電子黒板やタブレットによる教材、授業の展開について全授業で研究していく。またロイロノートや classroom を積極的に活用する 4 各種研究会や研修への積極的な参加を目指し、特に観光ビジネスやマネジメントといった新しい分野・科目の研鑽を深める 5 新課程における授業内容について研究し、観点別評価など評価についても研究・実践をしていく。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 検定取得だけを目的とせず、関連事象やニュースを取り上げた授業の展開、企業との連携も実施することができた。 ・ 電子黒板やタブレットなどを活用して、生徒の主体性を生かしながら授業を展開することができた。今後も授業方法など研究を継続していきたい。 ・ 新課程による授業内容の変化による対応など、それぞれの教員が自らの課題に関するものについて研修を通して学ぶことができた。今後も研修を続けていきたい。 ・ 新課程となってから授業内容や授業評価について詳細に取り組み、観点別評価を実践することができた。来年度からはこれまで設定したことのない科目が開講されるので、今後も継続して内容・評価について研究していきたい。

部 署 名	農 業
今年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学びと働きを連携させた人材育成 2 進路実現を支援する体制づくり 3 基礎学力の定着を図る 4 危機意識を持たせ安全に作業を進める態度を養う 5 地域連携を進める
方 策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 栽培や食品製造などの農業学習（実習）を通して、それぞれの工程に必要な知識や技術を身に着けながら勤労観を育み、地域に貢献できる人材を育成する。 2 将来を見すえた科目選択、進路希望調査に基づいて学科内や分野間で連携を取りながら、計画的に進路支援を行う。 3 各科目におけるレポート指導を通して課題解決の力を養うとともに基礎的・基本的な学力を身につけさせる工夫を行う。資格取得を通して、意欲的に取り組む姿勢や生徒に自信を持たせ進路学習へ結びつける。 4 GAP、HACCPの学習を通して、栽培や生産・加工に至る過程での危害要因に気づかせ、それを除くか減らすようにさせる。 5 丸子中央小学校との交流、東京農業大学との山村再生プロジェクト、農業クラブ活動などを通して地域連携を図り、自主性やコミュニケーション能力を養う。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 学びと働きを連携させた人材育成は、農業科の特色でもある実学を主体とする豊富な体験を踏まえ、個々の生徒の問題解決能力やコミュニケーション能力の向上、人間力向上につなげる学習活動が定着している。また、進路について深く考えさせる「問い」から主体的に資格取得に力を傾ける生徒もいた。 2 進路実現を支援する体制づくりについては、丸子実業からの長い歴史の中で培われてきたノウハウを踏まえ、自ら選択した科目の中で、主体的に選択し取り組んだ結果が進路へと結びつくよう、資格取得も含めた支援体制が構築され、計画的に進路支援を行った。 3 基礎学力の定着については、教科横断的に取り組む課題として、農業科でも以前から取り組みを模索してきた。学び直しの機会として、農業科の科目内でも意識して取り組まれている。 4 トラクターや薬品など様々な危険要素があり、学習活動の前段としての安全教育が徹底されている。これにより規範意識の醸成や社会的ルールの厳守など社会人としての資質を養う場としてきた。また GAP/HACCP など社会の変遷に合わせ必要な知識・技術についても意識付けを推進している。 5 地域連携については例年通り進めているが、天候や感染症の近況に合わせ臨機応変に対応することができた。参加した生徒には進路選択の参考とし、職業への理解と自分の価値判断の材料として生きた形で還元できている。

部 署 名	工 業
今年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域貢献や社会人講師による実技講習を通じ、生徒の意欲・創造力・職業観を育成する。 2 資格取得などの明確な目標を設定し、学習意欲を高める。 3 インターンシップを通じて企業との連携を深め、情報交流を推進する。
方 策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域連携と ICT 活用による職業観の育成 依田川リバーフロント事業や箱山城桜ロード整備などの地域連携事業に参加し、また i-Construction を含む ICT 施工管理の実技指導を通じて、実社会での技術活用を体験させ、職業観を育成する。 2 生徒参加型授業と資格取得への挑戦 各種資格取得に向けた明確な学習目標を提示し、生徒自らが努力する参加型授業を展開する。ものづくりコンテスト（測量部門）にも積極的に参加する。 3 現場体験と進路意識の向上 2・3 年生を対象に現場見学や 3D レーザースキャナー講習、インターンシップを実施。専門科目が社会でどのように活用されているかを実感し、学習意欲と将来設計につなげる。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 依田川リバーフロント事業や箱山城桜ロード整備などの地域連携事業に参加し、実社会と結び付いた学びを通して職業観を育成した。 2 武石自治センター・武石建設業協会と連携した「みんなで創る美しい郷活性化プロジェクト」武石公園人道橋修繕事業に、2・3 年生 40 名が参加した。 3 資格取得への挑戦や、ものづくりコンテスト測量部門での県大会・北信越大会出場を通じ、主体的に学ぶ姿勢が育まれた。 4 ICT 施工管理や 3D レーザースキャナー講習、現場見学・インターンシップを実施し、進路意識と学習意欲の向上につなげた。

部 署 名	家 庭
今年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 家庭や地域において生徒が主体的に生活を創造する能力と実践的な態度を養う。 2 生活に必要な知識と技術を修得させるために実験・実習の充実を図る。実習や検定取得を通して生徒の意欲や進路実現への意識を高める。 3 地域との連携を積極的に図る。また、社会人講師による授業等により専門的な学びを深める。 4 総合学科における魅力ある家庭科の学びについて研究・考察する。
方 策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒が自分の生活を振り返り、問題点・課題点をみつけ、それに対する解決策・改善策を探求し、今後の生活に活用できるようにする。 2 生活体験が乏しい生徒が増加しているため、実験・実習の機会をより多く取り入れる。家庭科技術検定や各種コンテスト・コンクールへの応募の機会を多く設定する。身につけた知識・技術を進路実現に活かせるよう指導を行う。 3 地域や学校間との協定や連携事業を活用したり、社会人講師を積極的に招聘し専門的、先進的な指導を行う。 4 カリキュラムの変更に対応した今後の本校の家庭科の学習内容について、研究・考察する機会を増やし、魅力ある授業づくりに活かす。
結 果	<ol style="list-style-type: none"> 1 各授業で生徒が自身や自分の生活について見つめ振り返る活動を通し、解決・改善策を考え今後の生活に活用できるよう実践できた。1年生はホームプロジェクトに取り組むことができた。 2 食物・被服・保育分野において、技術検定試験に多くの生徒が挑戦し合格することができた。知識技術が身につきそれぞれの進路実現に活かすことができた。デザインコンクールでは被服分野生徒が入賞した。 3 信州学をはじめ、各授業で社会人講師による専門、先進的な学びを深めることができた。生徒の意識や技術の向上につながる良い機会となった。 4 新設科目についての研究考察を深めることができた。

部署名	福祉
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教科指導を通じ、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、福祉を学ぶ者として相応しい倫理観や人権意識を育む。 2 総合学科の強みを生かし、教科横断的な視点で学習内容及び指導方法を検討・実施する。 3 社会の変容と福祉の繋がりを理解し、福祉的な視点から地域社会を支えることができる実践力を養う。 4 新課程における教科指導方法および学習評価について研究・実施する。
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の学習への主体性・意欲を高めるため、電子黒板やタブレットの効果的な活用を継続する。また、多様な価値観や生き方に触れることで、豊かな人間性を養えるよう、協働的・対話的な学びを確保する。 2 他教科や地域との関わりを深めることで、多角的な福祉学習ができるよう追及する。 3 ニュースや新聞記事等を活用し、社会福祉の現状を学ぶ。また、地域社会の課題について自分ごととして向き合えるよう、福祉従事者や当事者による講話、多様な人々との交流学习を取り入れる。 4 効果的なカリキュラムマネジメントを行うため、教科指導に関する研修会への参加や授業見学を行い、自己研鑽に努める。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒はもちろん、多様な人々が協働・対話しながら体験的に学ぶ福祉活動を多数取り入れた。また、その成果についてロイロノートや Google フォーム等を活用しながらまとめ、発表することで、生徒に地域福祉を発信・推進していく主体者としての意識が芽生えた。 2 他教科との協同学習や同科教員による授業を取り入れたことで、新たな福祉活動・地域交流を生み出すことができた。次年度も地域との関りを大切に、多様な視点から福祉を実践できる人材育成を目指す。 3 社会の課題・解決を題材にした授業や体験学習を継続的に行うことで、「より深く知りたい」「自分にできるサポートをしたい」など、生徒の意識が変容し、意欲的にボランティアや地域福祉活動に参加するようになった。生徒の興味・関心を引き出す題材、高校生の持つ素晴らしい力を発揮できる地域福祉活動について、今後も検討していきたい。 4 他校との情報交換や研修会等へ参加しながら、効果的なカリキュラムマネジメントについて検討した。総合学科の特色や丸子地域の魅力を生かした学習をより充実させるため、次年度から学校設定科目（ユニバーサルデザイン）を新設することとした。今後も、本校ならではの学びを追求していく。

・係

部署名	教務
今年度の重点目標	1 災害、感染症等への危機意識を高め、安心・安全が担保された学校運営を行う。 2 本校における教育活動の趣旨や取り組み状況を、各種メディアを利用して情報発信し、校内外を問わず理解を深め、関心を高めてもらう。 3 図書館について、総合研究や探究学習の、学習センター的な役割を担うために資料の充実を図り、利用者増加につなげる。
方策 (取り組み)	1 危機管理マニュアルについて情報収集を行い、災害ごと、事象ごとにマニュアルの追加や刷新を図る。 2 報道機関などへの取材依頼を積極的に行うだけでなく、校内の関係部署と連携しHP・インスタグラムの充実を図る。 3 図書委員と協力し、様々な企画立案・展示・掲示を行う。
結果	1 危機管理マニュアルについては、新年度になってからの情報に内容の更新を行った。次年度へ向けて、追加事項がないか十分検討していく。 2 事象ごとにより掲載の可否を管理職に判断してもらう形で更新を行った。 3 図書館利用の促進や図書委員会の企画を通し、利用者増加へつなげた。また、保育・福祉の授業で絵本の読み聞かせ講座を行い、生徒たちの学びをより深める場として機能した。

部署名	情報管理
今年度の重点目標	1. 【情報管理】校務の情報化、教育の情報化に関わるシステム導入、機器導入などが職員の負担とならないよう的確な支援を行う。また、全職員がICT機器を利用した授業を行うことでBYOD端末の有効な活用ができるように支援する。 2. 【校務支援】統合型校務支援を利用して行う業務についての情報を職員全体で共有し、円滑に作業が進められるように努める。 3. 【視聴覚】放送委員会の行う放送を通じて、全校生徒に正確な情報や明るいメッセージを提供する。放送機器の準備・運用を通して行事が円滑に進行するように努める。
方策 (取り組み)	1. 【情報管理】わかりやすい説明、マニュアル作りに努める。ネットワーク活用委員会やGIGAスクールサポーターと連携し、オンラインによる学習支援や学習効果を上げるICT活用の実践を進める。 2. 【校務支援】統合型校務支援を利用した業務が円滑に実施できるよう適切な時期に案内を行う。時間割に関する業務（年間・考査）、講座選択に関わる業務は他の部署と連携しながら進める。 3. 【視聴覚】放送委員会の活動として職員の指導の下、朝・昼・清掃時に放送を行う。文化祭時の放送を担当する。学校紹介等のビデオ制作を行う。行事・式典時の放送業務を担当する。
結果	1. 適切な時期に適切な案内をすることができたと考える。ICT活用についても支援事業を積極的に案内することはできたが、研修実態の把握までには至っていない。ネットワーク活用委員会の役割を明確にし、係だけにとどまらず、校内全体でICT環境について議論、検討する仕組みづくりが急務である。また、生徒購入のタブレットを十分に活用できていない、目的外利用が目につくという声もあった。授業におけるICT活用の事例共有や研修の実施、タブレット利用ルールの見直し・徹底など、次年度に引き継いでいく。 2. 講座選択作業は教育課程委員会と連携し円滑に進めることができた。時間割作成作業は担当者が変わってもミスなく実施できるよう、複数の目で確認しながら、場合によっては問い合わせ窓口を活用し進めていく。 3. 日々の放送当番や各種行事において放送委員会の活動を適切に支援することができた。学検業務や行事においても、適切に運用することができた。

部 署 名	生徒指導
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 規範意識を持たせ、安心できる学びの場所づくりに努める。 2 いじめや暴力、嫌がらせのない明るい集団作りを支える。
方 策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 全職員で頭髪服装指導の徹底を図る。 2 情報端末に関する学校統一ルールの見直しと徹底を図る。 3 遅刻・中抜け・無断早退等の防止に努める。 4 アセスやアンケートを利用し、生徒の状況を把握する。 5 生徒相談・生徒会等校内各部署との情報交換を密にし、連携を図る。 6 職員及び保護者へ指導方針や方法について発信
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 ルールの見直しはできていない。教員間の考えの相違もあり、来年度も見直しが難しそうである。 2 教員間の考えの相違があり、難航していたが、12月から試験的に携帯電話の自己管理を行っている。今年度はこのまま様子を見て、来年度からは完璧に生徒の自己管理に移行していきたい。12月から試験的に自己管理を行っているが、今のところ大きな問題は報告されていない。 3 近隣の住宅でのたむろがあり、お叱りを受けることがあった。見回りや、HRでの指導を通してケジメのある学校生活を送らせるよう粘り強い指導を継続していく必要がある。しかし生徒指導でも限界があるので、犯罪行為であれば警察への通報をしてもらうように苦情主には伝えているが、理解を得られないので、こちらも粘り強くお願いをしていきたい。 4 今年度からアンケートを精査し、生徒相談系のアンケートに一本化した。そのなかで何かあれば生徒指導に相談をしてもらうかたちをとったが、特に今のところは大きな問題は報告されていない。しかし、今後もアンケート結果で問題がありそうな場合は、すぐに報告してもらうように連携を密にしていきたい。 5 連携がとれているとは言い難い。生徒指導から生徒支援に対応が変わってきていることから、生徒指導係＋生徒相談係＝生徒支援係にしていく必要がある。他校でもこのような動きが出てきている。 6 新入生の保護者には、入学式後の保護者説明会にて校則については説明している。上級学年の保護者へは必要に応じて生徒を通じて家庭通知にて説明をした。

部 署 名	生徒相談
今年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 心身に不安を抱える生徒を早期に発見し、担当者間の情報共有を密にする。 2 外部の関係機関及び保護者と適切に連携をとり、円滑な学校生活・社会生活を送れるよう生徒を支援する。
方 策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 スクールカウンセラーの有効活用を立案、実施する。 2 アセス(学校環境適応間尺度)の調査を全学年で実施し、活用する。 3 学年会であがってきた支援が必要な生徒の情報を共有し、必要に応じチーム支援会議・教科担当者会議等を開催する。 4 生徒の状況に応じてSSW、自立活動支援員、サポートマネージャー等外部の専門機関とも連携し、適切な支援が継続的に行えるよう調整する。 5 相談力向上事業における教職員ワークショップ、生徒ワークショップなどを計画していく。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 スクールカウンセリングは、初めて日程を公にしたものの、今年度は希望者が少ないという異例の状況であった。継続して受けている生徒は、定期的な話ができる場が確保されているということで、なんとかバランスをとりながら学校生活を送れているように思う。来年度は、カウンセリングの配当時間をより有効活用できるよう、オクレンジャーを通じたの保護者への周知も検討したい。 2 1・2年生は年2回、3年生は年1回アセス調査を行い、生活満足度等の数値の低い生徒について、担任や係を中心に面談を実施した。アセスの調査実施後に学年で結果共有会を開き、1人ひとりの生徒の実態把握・内面理解に努めた。リスクの高い生徒について、より注意深く見守る視点を多くの教員で共有することができた。 3 学年会での情報共有により、SCやSSWにつなげることができたケースがあった。また、心配な生徒については、教科担当者からの情報を集約し、上田養護学校の久保田先生(自立活動支援員)に面談や授業観察をお願いした。しかし、こちらも例年に比べ、特に支援を希望しない家庭が多く、外部との連携がとりにくかった。 4 今年度、上記のメンバーが一堂に会しての合同会議の事例はなかった。「支援があった方がよいのでは？」というこちらの思いと、本人・家庭の考えが合致しない場合は、やはりそれ以上発展させることが難しいため行き詰っている。 5 上田養護学校の久保田先生に「高校現場で見られる発達障害の理解と対応」をテーマに講演していただいた。(5月)。年度の早い時期に教職員の共通理解ができるよう、可能な限り研修を計画していきたい。

部署名	生徒会
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒会活動の運営や学校行事等を積極的に企画・運営できるようにするとともに、自治組織としての自覚を持って活動する。 2 他の生徒の模範となるような学校生活を送る。 3 文化祭の在り方を考え、企画や実施方法の検討を行う。
方策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 各種生徒会行事における実施計画などを、生徒会本部役員、各正副委員長に立案させ、生徒が主体性をもって業務に取り組む。 2 日常の服装や挨拶など、生徒指導などと連携して生徒会役員として自覚を持った行動をさせながら、全校にも呼び掛ける。 3 他校の様子を聞きながら、実施案や企画を計画する。 4 上記のことを実践させるために、個々に応じた助言を職員が行う。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 前年度の申し送りや反省を受け、よりよい生徒会活動や学校行事に向けて自主的に企画・運営に取り組むことができた。 2 スマホの取り扱いなどこれまで課題にしてきた事案に対して、生徒指導、教員らと協議を重ねながら取り組むことができた。 3 ボランティア活動などを通じて他校との交流を深め、次年度に向けて行事の計画取り組んでいる。 4 生徒数や予算の関係上、これまでと同等の活動が難しくなることから、新しい活動・運営に向けて職員と協力しながら取り組んでいる。

部 署 名	進路指導
今年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒の職業意識・進路意識を高め、学習意欲の喚起に努める。 2 生徒の進路実現のために、校内指導体制を充実させ、外部機関も活用する。 3 進路情報の収集・整理・提供に努める。
方 策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 各学年・教科・係との連携を密にして模擬試験、補習等の一層の充実を図る。また、社会とのつながりや将来の社会的自立に繋げていく。 2 サポートシステム（教科の教員も含めての全員指導体制）や複数副担任制を十分に活用し、面接や小論文などに対する万全な指導体制を確立する。出口指導は進路指導の一部にしか過ぎない。学校の諸活動すべてが「人格形成」の場であることを再認識し、教職員が一丸となって指導にあたる。 3 資料・情報を収集・整理し充実させると共に、職員間の情報共有に努める。特に、より具体的で有効な情報を提供し、十分に活用できるよう指導することで、三者（生徒・保護者・教師）の意思統一に基づいた進路実現を目指す。情報提供には Teams, Classroom, オクレンジャーを有効活用する。 4 産学官連携事業として、3月期に上田市商工会と提携し1・2年生対象の「地域の産業と企業を知る会～丸修お仕事ナビゲーション」を計画・開催し、地元産業界の紹介と生徒の進路意識向上を目指す。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 各学年で模擬試験を計画的に実施した。もともとの受験者が少なく、回を経るごとにどんどん減ってしまうのが課題である。特に大学受験を目指す生徒に、継続的に取り組ませる工夫を考えたい。 2 3学年の出願指導の際に、担任・副担任・係で協力して面接や小論文対策を行うことができた。しかし、付け焼刃な部分が大きいため、継続して指導できる取り組みを考えていきたい。 3 進学や就職に関する情報発信は、ある程度できたと思われる。しかし、特に保護者向けの情報発信や情報共有という面で課題があるように感じる。生徒の進路選択に大きな影響を及ぼす保護者に向けて働きかけられる工夫をしていきたい。 4 「地域の産業と企業を知る会～丸修お仕事ナビゲーション」は3月5日に実施予定。出てきた反省点を踏まえつつさらにブラッシュアップして、生徒一人一人の進路選択のために有益な企画にしていきたい。

部 署 名	総合学科推進
今年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 総合学科の特色ある教育活動を推進し、総合学科に対する理解の促進をはかるとともに、学習と自己のあり方や生き方を結びつける充実したキャリア教育を実践し、深い自己理解・社会理解に裏打ちされた人間力の養成に努める。 2 1年次 「産業社会と人間」を中心としたキャリア教育を展開し、目先の進路だけでなく、今後の人生を考えるうえで根幹となる考え方や汎用的スキルの修得を目指す。 3 2年次 自己の具体的な進路設計を行うとともに、グループ活動など協働的な学習を通じ、探究活動を行うための基礎力の修得を目指す。 4 3年次 自らの学びの集大成としての総合研究を充実させるとともに、教科間連携を推進し、多面的・多角的な視野を大切に協働的な探究活動に挑戦する。
方 策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 1年次の「産業社会と人間」においては、自己理解ワークの積み重ねとインターンシップや上級学校見学など校外学習の充実により職業理解・社会認識を深めたうえで、講座選択に取り組みさせる。 2 2年次の「探究基礎」においては、探究メソッドの習得を重点におき、「総合研究」への足がかりとなる探究基礎力の養成に向けたプレ探究活動を展開する。 3 3年次の「総合研究」においてはテーマ設定と仮説の立案を重視し、自身の学びの柱だけでなく、他分野との連携を深め、知識や技術の深化と総合化をはかる。また、先行研究調査やデータなど根拠に基づいた考察を行う。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 1年次生は産業社会と人間の授業を中心に自己理解および社会理解を深め、自身の3年間の学びを設計することができた。 2 2年次生は各種ガイダンスを通じて、進路意識を高めるとともに修学旅行を絡めた地域間比較によるプレ探究活動を通じて、探究基礎力の修得に努めた。 3 3年次生はこれまでの自身の学びを土台とした探究活動を展開し、知識や技術の深化と総合化を図ることができ、発表会でその成果を披露した。 4 次年度総合学科 20周年に向け、キャリア教育全体像の見直し、講座選択の改善、広報活動の充実に力を入れていきたい。

部 署 名	保健・美化
今年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒と教職員の健康を保持増進する。 2 学校環境を整備し、教育活動が円滑に行われる様に環境を適切に調整する。 3 感染症に対する予防対策を推進する。 4 衛生的で、よりよい学習環境づくりのための日々の清掃活動指導。 5 行事日前・後の（行事日を活用した）清掃指導の強化。 6 ゴミ分別指導の徹底。（可燃ゴミ・再生紙・プラスチック等） 7 ゴミステーション生徒当番制の運用。 8 清掃用具等の補充・交換および収納状況の点検指導。
方 策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 健康診断、検査等を計画的に実施する。LHR時に講師を招き、薬物や性問題など学校生活に基づく講話をお願いし、望ましい健康観を育てる。教職員を対象に心肺蘇生法講習を開く。 2 水質検査、危険箇所の確認のための巡視、採光や空気などの調査を随時行う。また、学校医や学校薬剤師との連携を密にし、生徒や教職員が生活しやすい環境を整える。 3 手洗いの奨励、換気の実施、施設の消毒等できる範囲で実行していく。 4 委員会生徒及び職員による定期的清掃点検。 5 行事前後の校内清掃を全校生徒で実施。 6 定期的な清掃用具点検。 7 各教室の受講生徒数の机・椅子数確認を年度末に実施(引継ぎ)。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 計画通り実施済。 2 計画通り実施済。 3 委員が清掃時などに洗剤を補充するなどの活動を行い、計画通りに実施できた。 4 おおむね計画通り実施できた。 5 おおむね計画通り実施できた。 6 清掃用具の補充は実施継続中である。 7 年度末に予定している。

部 署 名	渉 外
今年度の 重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 PTA 行事を通じて、保護者と教職員の信頼関係と親睦を深め、教育活動の円滑化を図る。 2 同窓会業務の円滑な運営に協力する。 3 同窓会組織の維持・拡大に協力する。 4 同窓会員相互の親睦と学校との連携を強化する。
方 策 (取り組み)	<ol style="list-style-type: none"> 1 オクレンジャーを活用してPTA 活動への参加を促す。 2 「PTA 総会資料」や「PTA 会報かがやき」などを通じた情報発信により、学校の取組や近況を保護者へ周知し、行事参加の促進と信頼関係の構築を図る。 3 同窓会行事の円滑な運営とその内容の見直しを行う。 4 同窓会支部組織の拡大に向けた具体的方策を検討する。
結果	<ol style="list-style-type: none"> 1 オクレンジャーを活用し、PTA 総会、研修、作業、各部会活動の周知と参加促進を図った。 2 生活指導・教養・総務・厚生各々が、それぞれの役割に応じた活動を実施した。 3 会報「かがやき」や総会資料を通じ、学校の取組や近況を保護者に伝えた。 4 同窓会では会員の退会増加や会費徴収減が課題となり、今後の運営への影響が懸念されていますが、新たな取組として、SNS を活用した情報発信を通じて会員と学校を繋ぐ方法も行っています。また、在校生への就職支援やクラブ振興などの支援活動も継続して行われました。